

(様式2)

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
24	川崎市立西中原中学校	田中 眞砂美

学校教育目標	中期経営目標
<p>校訓 耐える力 探る心 心得 (1)しっかり勉強しよう (2)正しい行動をとうろう (3)美しく豊かな心を持とう (4)からだを鍛えよう</p>	<p>分かる授業の展開による確かな学力の定着 心の通い合う人間関係と豊かな人間性の涵養 心身共に健康でたくましく生きる生徒の育成 「西中原中学校らしい」魅力ある学校の創造</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 生徒の習熟度に応じたきめ細かな学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを持って取り組む計画的な校内授業研究会・研究協議会の実施 ・ユニバーサルデザインを生かした学習環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想推進協力校として、年間2回の校内授業研究会を実施した。全職員で授業を見学し、その後、意見交換と研修を実施したことで、職員がGIGA端末を活用したわかりやすい授業を実施する意識が向上した(生徒回答89%) ・職員は発言しやすい授業を心がけているが、生徒のアンケート結果では、授業中発言や質問がしやすい、と回答した生徒は65%にとどまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想推進校に指定を受けたことで、端末の機能を生かした授業を実施することができたが、さらに個別の課題を解決したり、意見交流を行うことができるよう、引き続き、有効な活用方法を職員が身につけられるよう、研修を続けていく。 ・支援教育の視点を全職員で共有し、支援の手立てのある授業改善を行っていききたい。
2 信頼性・妥当性の高い評価・評定と指導法の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・西中原中学校の評価評定の実施方法についての研修を行い信頼性のある評価を実施するよう努めた。 ・校内で評価評定の研修を実施するとともに、教員が生徒にわかりやすく説明できるよう研修を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒によるアンケート結果は、「成績の付け方を理解している」は81%が肯定的に回答したが、「適切に評価されている」と回答した保護者は69%であった。評価の妥当性と信頼性について、わかりやすく説明できるよう共通理解していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの学年を複数の教員が担当する状況のため、次年度も各教科部会を行いながら評価規準や評価材料について十分に共通理解をし、指導と評価の一体化を進めていきたい。 ・評価項目や評価の手立てを検討するなど、テーマを決めた評価研修を実施し、さらに理解を深めていきたい。
3 生徒に寄り添い、傾聴し受容する教育相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と教員の相談しやすい関係作りと年間3回の教育相談活動を軸として進めている。 ・いじめや友人関係のこじれなどから登校できなくなる状況にある生徒への支援をSCや適応支援室での相談につなぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生は困ったときに相談したり話を聞いてくれる」と回答した生徒は84%だったが、「困ったときに相談しやすい」と回答した保護者は73%であり、回答に開きがあった。 ・保護者との連絡を密にして生徒の様子を把握したり、見守る体制を整えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導担当が提案する相談活動の体制を教員同士が共通理解することで、生徒が相談しやすい体制を構築できると考える。 ・生徒一人一人が抱える課題に寄り添い、必要に応じて関係機関との連携も視野に入れながら対応できるようにする。
4 一人一人の生徒の特性と教育ニーズを踏まえた支援教育体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・適応支援室を中心とした支援教育の視点を生かした生徒への対応を教職員が学びあう研修を行う ・週に1度の主任会・支援部会で学年の生徒の状況を共有し、具体的な対応や対応の進捗について確認し、協議する。 ・教室や授業をユニバーサルデザインを意識して構築していく ・効果測定研修を実施し、生徒理解に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の情報の共有を大切に、共通理解の元で指導している。 ・「どの授業もおおむね理解できる」と回答した生徒は86%であるが、さらに見通しのある分かりやすい活動や授業にするために、めあてと流れを意識した授業展開を考える必要がある。 ・共生＊共育プログラム研究協力校として、効果測定の見取りに関する校内研修を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに生徒への対応について研修を実施しているが、一人一人の生徒の対応を通して教員が学ぶことを大切に生徒指導体制を整える。 ・授業に関する生徒アンケートの結果の分析や効果測定の結果を生かして、一人一人の教員が授業改善を図るよう意識改革を行う。
5 生徒自身が成長の手助けを感じるキャリア教育の推進と進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間、特別活動、生徒会活動、部活動での主体的な取組の計画 ・平和教育、キャリア教育の横断的な取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は地域の協力により、職場体験学習を実施することができ、生徒の自分の将来への意識を高めることができた。 ・校内でのワークショップを計画的に実施することができ、心の健康に関する講演、LGBTQに関する講演、平和教育に関する講演を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平和教育やキャリア教育を横断的に実施できるように、引き続き計画的に行い、ポートフォリオに生かす。 ・ワークショップが生徒の自己理解や他者理解につながるよう、共生＊共育プログラムを生かした取組となるようにする。

6	主体的に活動する生徒会、委員会、学級作りの推進	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意見を生かしながら、全ての学校行事や教育活動を計画通りに実施することができた。また、自分のクラス、学年の中で自分の役割を果たすことを大切に、活動をさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校生活が楽しい」「学校やクラスの仕事に取り組んでいる」「行事に積極的に取り組んでいる」と回答している生徒は90%を超えている。 「学校やクラスで役に立っている」と回答した生徒は59%にとどまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動等は生徒の自己肯定感・自己有用感につながる大切な活動であることを踏まえながら、活動が生徒にとって未消化にならないよう、また、教員にとって過度な負担にならないように計画的に実施していく。
7	学年・学級通信、学校ホームページ等による地域や保護者への積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 学校便りの定期的な発行と地域への配布 時期に応じたHPの更新 保護者への一斉送信メールを活用した情報提供 地域のつながりを生かした活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学校便りを地域に配布したことにより、学校の様子を知ることができて嬉しい、という言葉がいただいた。西中原中学校の取組を地域に周知し、理解を得ることができた。 HPを活用して生徒の活動の成果を掲載することで、広く学校の活動を知らせることができた。 保護者への一斉配信メールを活用した欠席連絡や部活動の連絡を取り入れ、保護者の負担の軽減を図っている。 地域団体とのつながりを生かした活動を行い、生徒が楽しく参加できた。(テクノ工作部、男子バスケットボール部) 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、学校便りやHP等を生かして、学校の様子を発信し、学校の教育活動に理解が得られるように努めていきたい。 他県からHPを見て、大規模校の学校運営や夜間学級について問い合わせがあることがある。これからもHPの更新と充実を図りたい。 引き続き、保護者への連絡手段として、一斉送信メールを生かしていきたい。 地域教育会議など地域とのつながりを生かした生徒の活動を継続して行い、いつまでも地域に愛され、応援される学校を目指したい。西中原中学校寺子屋を発足させることができ、生徒が楽しく学習できる環境作りができた。

k

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>3月15日に西中原中学校学校教育推進会議・部活動運営委員会を開催し、生徒会本部役員・部長会・PTA役員・歴代PTA会長・同窓会長・地域教育会議議長に集まっただき、意見交換を行った。その際、学校関係者からは、生徒が楽しく生き生きと学校生活を送っていることを評価しつつも、さらに学校が活性化するためには、生徒一人一人に役割があり、活躍の場があることが重要であるとの意見をいただいた。また、生徒からはコミュニケーションを大切に、一体感のある西中原中学校の活動に誇りを持ちながらも、よりよくしていきたい、という意見があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員全体が一丸となり、約1400名の生徒についてきめ細やかに対応しながら教育活動を行い、生徒・保護者との信頼関係を築くことができた。 教室に登校することがづらい状況にある生徒にとっての学びの場や形について、本人・保護者の思いを大切にしながら、支援教育を軸にして相談を続けていく。 中断していた地域教育会議の活動を地域との連携を大切にしながら再開できるよう、準備を進めることができた。次年度には、生徒が参加できる具体的な形を示していきたい。 夜間学級を抱える超過大規模校であるが、教職員の協力により、平均時間外在校時間を減らすことができた。引き続き、生徒の活動を大切にしながら、教員の事務作業的な業務負担を軽減し、生徒と向き合う本来の業務に注力できるよう組織改革や業務改善を進めていく。